

アトリエ 訪 問

粘土でできたキャラクターを、
少しずつ動かしながら撮影するクレイアニメーション。
伊藤有壱は、その世界の第一線を走り続けている。
イモムシが主人公の幼児向け番組「ニャッキ!」をはじめ、
CMやミュージックビデオ、短編劇場映画など、彼の手から、
実にさまざまな映像が生み出されている。その制作現場取材した。

撮影 永野雅子

第 9 回

伊藤有壱

アニメーションディレクター

横浜の港近くにある5階建てのど
っしりとした白い建物。以前は保税
倉庫だったその一室に、伊藤さんの
会社「I.TOON」がある。「どうぞ」
と笑顔の伊藤さんに招かれて中へ入
ると、コンクリートの壁には、撮影
用のセットが天井近くまでずらりと
並べられていた。

——思わず天井を見上げてしまいま
した。

伊藤 もともと倉庫だったため、天
井高が6メートルあるんです。床が
フラットで頑丈ですし、撮影スタジ
オにぴったりの空間ですよ。

横浜に会社を移して10年になりま
す。以前は東京にいたのですが、作

家性の強い仕事が多くなるにつれ、
創作するために、自分のベースをど
の地に置くべきなのか考えるようにな
って。

——なぜ横浜だったのでしょうか。

伊藤 横浜で育ったこともあり、「ニ
ャッキ!」(NHK Eテレの幼児番組)
の物語を考えると、自然と横浜
の風景を思うことが多いんです。僕
の原風景がここにあるのかな。

それから、僕は英国のアドマン・
アニメーションズ(※1)に刺激を受け
て、クレイアニメーションに興味を
もつようになったのですが、同社の
創設者の一人であるピーター・ロー
ドさんに「自分の居場所は自分でつ
くるものだ」と言われたことが大き



これまでに撮影で使われたセットが壁一面に並べられていて圧巻だ。



「ニャッキ!」に使われるパーツ。粘土に埃が付かないよう、普段はラップなどで覆って保管。



粘土の汚れをきれいにするときや、指で触らずに物を動かしたいときは綿棒を使う。



左が「HARBOR TALE」の冒頭で使われたセット。右は映画会社のプロジェクトで使用されたもの。

く影響しています。

彼らは10代の頃にロンドンで会社を立ち上げて、その後、自分たちの生まれ育ったブリストルという港町に拠点を移しました。ブリストルという場所に誇りをもっていて、スタジオもスタッフもその地で年々成長している。「自分の居場所をつくる」ということは、自分一人ががんばることではない。アニメーションは、複数の人間で制作するから、「場」というのがとても大事なんだ」ということを、彼らから教わりました。僕が、仕事を横浜に移したのは、そういう理由もあったわけです。——教科書（『美術2・3』P37）では、伊藤さんのお仕事の様子をご紹介します。「ニャッキ!」が生

まれた背景を教えてください。

伊藤 ビジュアルエフェクツとコンピュータグラフィックスの仕事をしていて、当時は粘土に触ったことがなかったんです。でも、棒1本を動かすならなんとかなると思って（笑）、イモムシを主人公にした「ニャッキ!」を考えました。棒1本が動くことで、どんなドラマが生み出せるのか、観た人にどんな視覚体験を与えられるのかという、実験でもありました。

「ニャッキ!」のキャラクターは、1秒間に15回動かします。5分間の番組なので計4500回。スタジオに3~4週間もって撮影するのですが、なかなか地道な作業です（笑）。——スタジオに保管されている「ニ

ャッキ!」のパーツの数の多さからもその大変さが伝わってきます。ここには、伊藤さんの作家としての代表作の一つ「HARBOR TALE」のセットも置いてありますね。

伊藤 「HARBOR TALE」は、横浜の赤レンガ倉庫から着想し、港町を舞台にした、レンガが主人公の作品です。この作品では、「ネオクラフトアニメーション」※2という新しい手法を提案しました。

僕は、アニメーションに未知の可能性を感じているんです。今も頭の中にアイデアはたくさんあります。でも、本当にうまくいくかどうかは現場に入ってみないとわからない。そこが苦しくもありますが、すごく楽しく、創造的だと思っています。

※1 アードマン・アニメーションズ
英国のアニメーション制作スタジオ。
クレイアニメーション「ウォレスとグルミット」や
「ひつじのショーン」シリーズの制作で有名。
※2 ネオクラフトアニメーション
I.TOONが提唱する、
アナログなアニメーションの要素に最先端の
デジタルの技術を融合させた手法。

「アニメーションには、
まだ未知の可能性が
あると思うんです。」



いとう・ゆういち

1962年東京都生まれ。5歳より横浜で過ごす。
東京藝術大学デザイン科卒業後、SFXやCGのプロダクションを経て、
98年にアニメーション工房「I.TOON」を設立。
NHK Eテレの番組「ニャッキ!」の他、
CM、宇多田ヒカルや平井堅のPVを手がける。
2011年に「HARBOR TALE」を発表し、国内外の映画祭で
さまざまな賞を受賞。東京藝術大学大学院映像研究科
アニメーション専攻教授も務める。

